第2回港区区政会議福祉部会 議事録

- 1 日 時 令和元年 10 月 29 日（火）午後 7 時～
- 2 場 所 港区役所 5 階会議室
- 3 出席者（委 員） 遠藤委員、大西委員、大場委員、加藤委員、金高委員、
香山委員、讃井委員、佐用委員、畑委員、藤原委員、
山本委員、横田委員
（関係者） 港区民生委員児童委員協議会主任児童委員連絡会 新藤氏
（港区役所） 筋原港区長、遠藤港区副区長、藤田総合政策担当課長、
中村保健福祉課長、瓦子育て支援担当課長
朝間生活支援担当課長、高安窓口サービス課長、
橋本保健福祉課長代理、太田保健福祉課長代理、
上野保健副主幹、峯生活支援担当課長代理
- 4 議 題 議長・副議長の選任について
令和元年度の施策・事業の中間評価について
令和 2 年度予算編成への意見聴取について
その他

○橋本保健福祉課長代理 本日はお忙しいところ、また夜分にもかかわりませず、港区区政会議福祉部会へご出席いただきましてありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまより港区区政会議福祉部会を始めさせていただきます。

本日は、部会の議長、副議長をご選任いただきますので、それまでは区役所のほうで進行をさせていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます港区役所保健福祉課長代理の橋本でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、最初に筋原区長から一言ご挨拶させていただきます。

○筋原区長 皆さん、こんばんは。港区長の筋原でございます。

本日は、お仕事やご家庭のご用事でお忙しい時間帯にもかかわりませずお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。また、港区区政会議の委員に、皆さん、応募していただき、あるいは地域活動団体等からの推薦によって委員にご就任をいただきまして、誠にありがとうございます。皆様のご意見、ニーズを踏まえて、区政を運営してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたしますを申し上げます。

港区の区政会議でございますけれども、部会が福祉部会、それから防災・防犯部会、こども青少年部会という3つの部会で構成されております。今日、令和元年度第2回の港区区政会議福祉部会ということになっていますが、この新しい委員の皆様で開催されるのは今日が初めての福祉部会ということになります。

港区の区政運営については、基本計画で港区のまちづくりビジョンというのがありまして、これが基本計画です。それに従って、それぞれの個々の事業に関しては運営方針というものに基づいて施策を遂行しているという状況でございます。今日は令和元年度施策事業への中間評価、振り返りのご説明をさせていただきますので、その中でも、また来年度、令和2年度の予算に向けての考え方も盛り込みながらご説明をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたしますを申し上げます。

この部会で関連する、今日でしたら福祉の関係の施策事業についてご議論をいただいて、また区政会議の全体会議というのが後日ありますので、その区政会議の全体会で部会の議論した内容の報告をするとともに、3部会以外の例えば活性化とか、にぎわいづくりとか、そういうようなことについては区政会議の全体会でご意見いただくという形で運営をしております。

皆様方の特にこの区政会議の部会が非常に前から活発でございますので、ここでいただく

意見が非常に我々、貴重なご意見で大切にしておりますので、どうぞ忌憚のないご意見をいただければと思っています。

今日は皆様、委員で初めての方もおられますので、ちょっと基本的なところからのご説明をさせていただきますので、いつも説明は短くということで重々おっしゃっていただいておりますが、今日は最初ですので、ちょっと長めのご説明になるかと思いますが、ご容赦いただきたいと思っています。

それと、あと今日、実は今年秋にオープンしたばかりの大阪みなと中央病院さんにお越しをいただいております。冒頭、大阪みなと中央病院さんに病院の状況について簡単にご説明をいただこうと思っています。後で詳しくご説明させていただきますが、今、国のほうも全国でいわゆる基幹病院を定めてやっていくということで、ちょうど大阪みなと中央病院さんは、その基幹病院の申請時期が前の築港からこちらへ移る時期だったので、これからその申請をされるという状態になっていますので、これは当然、大阪みなと中央病院さんは港区のどうしても必要な基幹病院という位置づけで弁天に移転をしていただきましたので、港区として必要な基幹病院ですと改めての確認も区政会議でしていただければなと思っていますので、どうぞよろしくをお願いします。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

○橋本保健福祉課長代理 ありがとうございます。

続きまして、現在の部会の開催状況をご報告させていただきます。

委員の出席状況ですが、委員の定数が15名のところ、ただいま11名のご出席をいただいております。本会は条例第7条第5項に定めております委員の2分の1以上の出席がございしますので、有効に成立していることをご報告いたします。

また、本会議は公開となっております。後日、会議録を公表することとなっております。会議の内容を録音させていただきますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

なお、マイクを通すと録音状態が非常によくなりますので、ご発言の際はマイクの使用をよろしくお願いいたします。

配付しています資料につきまして、一覧表をお配りしておりますのでご参照いただき、それぞれ説明の際に使用します資料ナンバーを申しますので、それらの資料がお手元にない方がおられましたら、その時点で挙手いただければ、事務局よりその都度お持ちいたします。よろしくお願いいたします。

それでは、まず区政会議の役割等について説明をさせていただきます。

○藤田総合政策担当課長 皆さん、こんばんは。総合政策担当課長をしております藤田と申します。時間を頂戴いたしまして、ご説明したいと思います。恐縮ですが、着席させていただいて説明したいと思います。よろしく申し上げます。

まず、区政会議とは何かということですが、お手元に事前の配付資料で、事前配付資料Aというものがあります。真ん中くらいに大きく区政会議と書いて、丸い枠が書いている図でございます。それをご参照いただけたらなと思っております。わかりますでしょうか。よろしいですか。

お手元を見ていただきますと、大きく区政会議と書いていまして、その下に区役所、それで矢印が上と下に載っております。大阪市では、地域のまちづくりに関しますいろいろなことにつきましては、住民に身近な部署、区役所になるのですが、住民の意見も聞きながら決定していけるように改革を進めてきたところでございます。そのために、区役所としては、24区全部共通なのですが、条例によって区政会議というものが定められております。これは何かというと、先ほど申しましたように、区政に関わりますいろいろなご意見を区政会議の委員でございます皆様方からお伺いいたしまして、それを区政にも反映していくというそのための場ということでございます。区で行う事業につきましては、決定してからこうだということではなくて、その立案段階からいろいろ皆様方にご説明を行いまして意見をいただくということを考えております。

構成のメンバーですが、また後でもご説明いたしますが、地域の代表の方、それから公募の方、それからいろいろ専門的な組織で活躍されている方が構成メンバーになっておりまして、意見をいただく事項といたしましては、最初に区長からもございましたように、大きな基本計画でございますまちづくりビジョンでございますとか、それから具体的な区の行動を示しております区の運営方針につきまして、ご説明とご意見を賜るというのが中心になります。そのほか、区政運営の総合的な評価をいただくということになっております。市議員の方も、全体会議になると思っておりますが、出席いただいて助言等もいただいているということになります。

裏を御覧いただきたいと思っております。

それでは、どのようなご意見をいただくかということですが、基本的なところでございますが、まず皆様方からご意見をいただきたいという範囲につきましては、区長の権限の属するということになりますので、区政運営の仕組みとか区長の位置づけについてご説明したいと思っております。

大阪市役所全体を考えますと、区長はそれぞれ24区役所にございますが、その上には市長がおりますし、また基本的には教育行政に関する権限は教育委員会というのがあって、教育長というのがおります。その権限は教育長にあるということをございますので、区長が全部を決定することができませんけれども、市の施策であっても、区のまちづくりに関することは区民の皆様から意見を直接いただく区長が決定できるようにというふうな位置づけとなっております。

例えば道路とか下水道、それから港湾といった都市基盤の整備でございますとか、法令に基づく福祉施策、それから防災計画とか観光とか教育、いろいろ全般的なことにつきましては、大阪市では24区全体ということで、各局や室が一体的に行っておりますが、現在大阪市の区長は区役所の行政を総括して指揮をするという区長という立場のほかにも、局や室の業務であっても、区に関わるものにつきましては区長がシティマネージャーという肩書きを持っておりまして、各局の局長などを一律的に指揮して、区民の皆様の意見なども反映しながら指揮監督をできるという権限を持っております。教育関係についても、教育次長という位置づけのもとで、同じような立場になってございます。そういうことをございますので、ぜひ区政会議の場を活用いただいて、いろいろ活発なご意見を賜りますようお願いいたします。

次の資料になるのですが、事前配付資料Bというものを御覧いただきたいと思ひます。

これは、名簿でございます。50音順で区政会議委員の方々のお名前を書かせていただひてございます。合計いたしますと、今、35名の方に区政会議委員ということでご就任いただひているところでございます。団体名というところを御覧いただきますと、一つは地域活動協議会というものがあひまして、そこから来られてひる方がいらっしやひます。港区では11地域がござひますので、そのコミュニティの活動を総括する母体ということで地域活動協議会がござひますので、11地域からそれぞれ1名の方をご選任いただひてご参加いただひているということ、それから公募委員の方がござひますし、それからそれぞれ専門的な団体があひますので、そこから来ていただひている方が集まりまして35名ということで構成させていただひているということです。

次に、事前配付資料Cというのがござひまして、御覧いただきますと、これが区政会議の運営要綱です。区政会議自体は35名の方で構成されておひまして、委員全員を対象とする全体会議がこの11月にまた開催しますが、より専門的なご意見を頂戴する場ということで、今お集まりいただひている福祉部会の他に、こども青少年部会、それから防災・防犯部会の3つの部会がござひまして、それぞれの部会でもご意見をいただひてひます。部会でいただき

ました意見交換を他日、また開催させていただきます区政会議の全体会議でもご報告いたすとともに、この3つの領域以外のものもごございますので、それにつきましては全体会議に皆様方もご出席いただきまして、また意見を頂戴していきたいと考えてございます。

先ほど申しましたように、前回の任期には、実は区政会議委員が50名くらいおられまして、部会の数につきましては15名前後ということでございました。ただ部会につきましてはいろいろ活発なご意見をいただいているんですが、どうしても区政会議の全体会議につきましては、50名の方がご出席いただくような規模になりますので、なかなかご意見をいただきにくいような環境がございまして、そういうことから、アンケートなどもいたしました結果、区政会議の構成を見直しさせていただいて今現在のものになっているということです。

各部会につきましては、先ほど申しました15名程度の方で活発にご意見をいただきたいのですが、全体会議はより意見が出やすい、またそれぞれの方からご意見をいただきますよう、会議の構成メンバーを絞らせていただいて35名とさせていただきます。全体会議に出席いただく方が区政会議委員であるということになりますので、そのままですと各部会の数の参加者の方も減らしていかないといけないのですが、そうなりますと部会でのご意見は15名程度で活発にいただいておりますので、部会の実質的な参加者の数を変えずに継続させるということで、今回から区政会議の委員の方とそれから関係者という位置づけになるのですが、各専門団体の方からこの部会のみ出席いただいてご意見をいただくという構成にしています。今回、福祉部会では、主任児童委員連絡会から新藤様が参加いただいております、関係者という位置づけにさせていただいておりますが、区政会議の委員の方と同様にご意見をいただきたい、またこちらも回答していきたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。以上が区政会議でございます。

それから、資料をめくっていただきますと、港区まちづくりビジョン、いちばん住みたいまち、住んで誇りに思えるまちというものがございます。これも区長の挨拶でもございました基本計画ということで、港区のまちづくりというのをどういうふうに進めていくのかというのをわかりやすく文章もございますが、グラフとかも使いながらわかりやすくお示したものがまちづくりビジョンです。

これは基本計画でございますので、例えば安全・安心・快適なまちづくりを進めるとか、いきいきと暮らせるまちづくり、それから子どもとかの教育とかの関係、それから訪れたい魅力と活気あふれるまちづくりということで、高齢化とかに対応する問題とか、地域コミュニティに係る問題、それから安全・安心、それからまちを活性化してにぎわいをつくって

く、いろいろな課題があるのですが、それを5つの柱をつくりまして計画を今進めているという状況でございます。

このまちづくりビジョンに基づきまして、例えば防災の計画とか、それから地域福祉の計画とかなどがそれぞれまたつくられております。今後の進め方、また全体会議の場で改めましてご説明をしたいと思っておりますが、これらは28年度に策定いたしまして、ちょうど平成31年度が目標年度ということで、今年で期限がまいります。区役所としては、継続してこの5つの柱に沿って引き続き区政を推進したいと思っておりますということ、それから区長任期が4年となっていて、その4年間というのを一括りの期間として一体的に計画を進めていきたいということもございますので、基本的にはこれは新たな計画をつくるということではなくて、今の状況にあわせてアップデートしていくという形でしていきたいと思っております。31年度で終わるところを翌年度1年間、延長させていただいて、古いところもございますので、そこは新しくデータとかを整理させていただきたいというふうに考えているところでございます。

それから次に、資料が飛びますけれども、事前配付資料Eというのがございます。わかりますでしょうか。運営方針とはというのを書かせていただいているところでございます。この運営方針、今日もそこを中心にしながら皆様にご説明いたしましてご意見をいただきたいと思っております。先ほど申しましたまちづくりビジョンなどにつきましては基本計画ですが、具体的に各年度毎に何をしてどうしていくのかということを決めたものが運営方針ということでございます。これは民間企業などでも使われているそうですが、戦略計画といえますか、経営戦略を組み立てまして、それがちゃんとうまいこと効果を上げているかをその都度、見直して行って改善をしながら目標の達成につなげていくというものがあるのですが、これも全区、全市的なものでございまして、運営方針というのが定められております。

運営方針ですが、あるべき姿と今の現在の状況というのは当然ギャップがございまして、それを埋めるためにいろいろ課題があるということでございます。その課題を埋めるために何をしなければいけないのかということをはっきりしながら、具体的な行動計画を示しているというものでございます。その行動計画を示すだけではなくて、測定可能な目標値をつけまして、ちゃんとうまいこと進捗しているのかどうかというのをチェックして行って、問題があればそれを改善していくということです。それがPDCAサイクルという下に載っている考え方でございまして、計画をつくって、実行して、それを評価しまして、その評価の結果に基づいてまたさらに改善を図っていくというものでございます。

その資料の後ろを御覧いただきたいと思います。

今現在、令和元年度の運営方針ということですが、策定されまして、最初のチェックを行うのが今ということになっています。それが下の表、ちょっと見にくいのですが、グラフみたいなものがありまして、中間振り返りというのがございます。運営方針というものが策定されて今実行されていますが、今の段階で中間振り返りを行うということでございます。年度末にはまた年度末の振り返りがございまして、来年になりますと、年度が終わってからになりますけれども、さらにまた振り返りというのがありまして、そういう経過を行いながら次の来年度の案でございまして、あるいは来年度の予算案の編成というものに対して参考に踏まえさせていただいて、参考にしていって改善に努めていくというものでございます。

以上、運営方針ということでございますが、港区では6つの経営課題というのがございます。各部会で関連する項目をご説明いたします。それ以外の項目については全体会議でご説明をしていきたいと思っておりますので、また全体会議もご出席をお願いしたいと思っております。

すみません、ちょっと説明が長くなりましたが、以上でございます。

○橋本保健福祉課長代理 それでは、今回新たに委員の選定がされましたので、委員の皆様や関係者としてオブザーバーでご出席いただいている方の自己紹介をお願いしたいと思います。恐縮ではございますが、左側の方から時計回りで順番にお願いできますでしょうか。

では、すみません、遠藤委員、よろしくお願いいたします。

○遠藤委員 遠藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○大西委員 波除地域活動協議会から推薦されてきました大西です。よろしくお願いいたします。

○大場委員 築港地域から来ました大場です。何もわかりませんが、頑張って勉強したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○加藤委員 こんにちは。港区地域支援調整チームの子育て支援専門部会から参りました港区社会福祉協議会の加藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○金高委員 港区の弁天町から今回公募で来ました金高と申します。よろしくお願いいたします。

○讚井委員 港区歯科医師会の讚井と申します。よろしくお願いいたします。

○佐用委員 八幡屋の佐用と申します。よろしくお願いいたします。

○畑委員 同じく八幡屋の畑です。社協の代表で来させていただいています。よろしくお願いいたします。

○藤原委員 港区地域支援調整チーム障がい者支援専門部会から参加させていただいております大阪市西部地域障がい者就業・生活支援センターの藤原と申します。よろしくお願いいたしますします。

○山本芳輝委員 こんにちは。山本芳輝と申します。公募委員で来させていただいております。夕風と築港で障がい者の施設をさせていただいております。在勤という形です。また、ここが終わったら電車に乗って帰らなあかんようになっております。よろしくお願いいたしますします。

○横田委員 市岡の地域活動協議会から来ました横田です。どうぞよろしくお願いいたしますします。

○新藤氏 主任児童委員連絡会の新藤です。よろしくお願いいたしますします。

○橋本保健福祉課長代理 皆さん、どうもありがとうございました。

それでは、本日の議事に入らせていただきます。

まず、本日の議題1の議長及び副議長の選任について、事務局より提案させていただきます。

○中村保健福祉課長 こんにちは。港区保健福祉課長の中村と申します。どうぞよろしくお願いいたしますします。

それでは、議長及び副議長の選任につきまして、港区区政会議運営要綱第5条第3項に基づきまして、委員の皆様の互選により、区政会議福祉部会の議長及び副議長を選任いただきたいと考えております。委員の皆様、立候補、ご推薦などございましたらお願いいたします。どなたかご推薦なり立候補はありませんでしょうか。

畑委員、どうぞ。

○畑委員 私ども、どなたもあれがなければ、大西議長、前回は福祉部会をやっていたので、よろしくお願いいたしますということですが、お先にどうぞ。一緒ですか。

○藤原委員 同じくで、前年度までお務めいただいていた波除地区の大西委員が適任ではないかなということでご推薦させていただきます。

○畑委員 一緒でした。すみません。

○中村保健福祉課長 今、お二人の委員から大西委員にぜひ議長にということがございますが、大西委員、いかがでございますか。

○大西委員 私も後期高齢者のいいところがございますが、議長の選出に余り時間をとって無駄になると思いますので、私の力は及びませんが、皆様のご協力を得ながら議

長を務めさせていただきたいと思います。皆さんの協力をよろしくお願いいたします。（拍手）

○中村保健福祉課長 それでは、続きまして副議長につきまして、立候補なりご推薦ございませんでしょうか。

○大西委員 副議長、前期のときに私と一緒にやっていた横田さんに副議長をお願いしたいと思いますので、横田さん、よろしくお願いいたします。

○横田委員 はい。（拍手）

○中村保健福祉課長 どうもありがとうございます。

それでは、委員の皆様の互選により、大西委員を議長に、横田委員を副議長に選任いたします。よろしくお願いいたします。（拍手）

それでは、議長及び副議長が選任されましたので、ここからの進行は大西議長にお任せしたいと思います。

大西議長、よろしくお願いいたします。

○大西議長 それでは、ただいま皆様方のご推挙によりまして議長に選出されましたので、これより議長を務めさせていただきます。皆さんの建設的なご意見、いろいろどんどん出していただきまして、よりよい港区、住みよい港区のために頑張ってくださいと思います。どうかよろしくご協力のほどお願いをいたします。

それでは、議事に入る前に、先ほど区長さんからお話がございました大阪みなと中央病院よりのご説明があるそうでございますので、議事の前に先にお願ひしたいと思います。

どうぞ。

○吉田大阪みなと中央病院事務部長 皆様、こんばんは。大阪みなと中央病院、私、事務部長の吉田と申します。今日は貴重なお時間をありがとうございます。それでは、少し座らせていただいて説明したいと思います。

まず初めに、資料の前になんですが、大阪みなと中央病院は、9月から新しいこの磯路のところに開院していますが、今後どういうふうな運営をしていくのかというようなところを今日は説明したいというのと、ご存じの方もおられますが、大阪みなと中央病院はJCHOといいまして、地域医療機能推進機構というような名前です。これは26年にこのようなJCHOという名前になったんですが、本来は船員保険病院と健康保険組合と厚生年金事業団、この3つが一緒になってJCHOということで26年に発足いたしました。公的病院ですが、交付金であるとか助成金というようなそのようなところの部分は一切いただいておりません

ので、自前でやっているような病院だということだけは認識しておいてください。

今日は皆さんもご存じのように、9月26日に新聞紙上で公的病院を再編成するとか、ダウンサイジング、ちょっと縮小するとかということが新聞紙上にいきなり出ました。これは全国に公的病院という、国立も含めてですが、1,600程度の病院がございます。その中で29年6月、いろいろなデータ、資料を出すのですが、そのデータに基づいてこの病院は縮小するとか、ひっつけるとかというような趣旨でございます。この1,600の中に1,400ぐらいの病院がデータを出してしまっていて、そのデータの中で再編成の対象に上がった病院が424ということの全国規模のマスコミに流れました。うちの病院はどうかということですが、名前は出ておりませんが、29年のデータでは、うちの現在では全然無意味ですので、29年度のデータは出しておりませんでした。ということは、残りの190ぐらいの病院はまだデータが出していないのですが、今後どうしていくかという議論の舞台に上がっていくというような運びでございます。

それで、今後、大阪みなと中央病院はどうしていくかというところですが、1枚ものの資料をつくりました。この裏の424公的病院の再編成というのが新聞紙上に載っている共同通信のものですが、うちの病院というのは9月から駅直結の弁天町地区に移転しているということと、この移転につきましては大阪市の共同事業である弁天町駅前土地区画整理記念事業の一環でありますよということで、ここの港区の地域医療・災害時の医療の拠点機能の形成を目的としたものでありますよというのが一つです。

移転にあわせまして、うちの前の病院までは234床で病床を運用していたのですが、この9月からは275床に拡大しております。それと、救急体制の話ですが、この9月から兵庫医大とも連携しまして、毎日ではないですが、医師不足の中で月曜日、火曜日の時間外の部分については兵庫医大の応援もいただきまして救急体制を強化すると、今後も院長の方針ですので、これは広げていきたいというようなところですよ。

11月になりましたら、訪問看護ステーションというのを開設します。今、訪問リハもしているのですが、この訪問看護ステーションを開設するということと地域医療の拠点として、地域包括ケアシステムというのがあるのですが、この高齢化になるところで在宅医療の拠点病院化を図りますよというようなことを図っていききたいと。

それと、最近災害が多いですが、災害時の医療の拠点病院として、地震のこともありますが、うちの病院は屋上にヘリコプターの緊急離着陸場というのを備えていますので、物資を上投下したりして、物資を運んでくるようなところも備えております。津波、水害を想定

しまして、全機能を受付の3階以上に機能を設けまして、災害時に水に浸かっても運用できるようなということで、自家発電も最上階の13階にありますので、1・2階が水没したとしても、持ちこたえるというコンセプトとなっています。

最後ですが、港区唯一の公的病院としてうちはスタートしたわけですので、厚生労働省の医政局がいいですダウンサイジングであるとか廃合となれば、この港区から総合病院がなくなるので、ここの部分は何としても死守していかなあかん。できたばかりですので、その部分はなかなかないとは思いますが、どうなるかもわからないので、いろいろなところで説明をさせていただいています。

大阪市のホームページを今ちょっと見ていたのですが、先ほど出ました75歳以上の後期高齢者の方、今現在は14%ぐらいなのですが、今後19%ぐらいに入ってきます。人口の3割が約65歳以上になります。そういう超高齢化社会になっていくという時代の中で、総合病院であります大阪みなと中央病院がこの港区でどういう役割をしていくのかというのは真摯に考えていかなあかんということで、院長を初め、今、この辺を別記していますが、こういう区政会議であったり、こういう会議でできることとできないことがあります。こういう病院であってほしいとかいうような意見をいただくと、うちも東京に本部がありますので、いろいろなところに意見を話をしながら持っていきたいというようなことで、今回ちょっとお時間をいただきながら説明させていただきました。趣旨はそうでございます。今後も港区の唯一の公的病院として努力しますので、皆様のご協力をお願いしたいと思います。

以上です。

○大西議長 どうもありがとうございました。

皆さん、今の吉田事務部長さんのお話に対して、何かご意見とかございませんか。

そしたらあれですか。やはり今日お話しに来ていただいたのは、みなと中央病院が今後どうあるべきか、我々区民からこうしてほしい、こうあってほしいというご意見を聞きたいと。

○吉田大阪みなと中央病院事務部長 それも一つですね。うちの病院は9月から入っていますが、どういう運用をしていくかというのをまず説明させていただいて、いろいろなご意見があると思うので、こうあってほしい、ここはこんな科を増やしてほしいとかいろいろあると思うので、そういうのを聞けたらなということがありました。

○藤田総合政策担当課長 ちょっと補足しますけれども、また区役所の先ほど申しました全体会議というのが11月12日19時からあります。その場でもう一度来ていただきまして、さらにご説明もいただく予定にしておりますので、その場でご意見等をいただくということでも

結構でございますので、またよろしく申し上げます。

○筋原区長 今日、大阪みなと中央病院さんの状況を今お聞きいただきましたように、港区の拠点病院というご決意というかをいただきまして、それでまた皆さん、全体会議までに考えていただいて、一つはこういう地域を支えるこういう病院であってほしいということと、もう一つは当たり前の確認ですが、これは弁天町駅前の土地区画整理記念事業の大阪市と大阪みなと中央病院、JCHOさんとの共同事業であそこ、大阪みなと中央病院が建って、隣に区民センターを建て替えるんですね、交流会館、2つセットで、ここで災害時医療、平時の医療の拠点と地域コミュニティの拠点が一緒になるという共同事業でできている事業でございますので、なくなるってどういうことですかということになりますので、当然ぜひとも必要な病院なので、地域と一緒に頑張ってくださいと、港区のまちとしての改めて意思確認、それを区政会議等で確認したいなと思っております。

○大西議長 どうもありがとうございました。ということでございますので、皆さん、次の全体会議までにいろいろそういう建設的なご意見、聞きたいこと、また要望ございましたら考えておいて、全体会議のときにまた発表していただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

中央病院の吉田さん、どうもご苦労さまでございました。ありがとうございました。

○吉田大阪みなと中央病院事務部長 ありがとうございました。（拍手）

また皆さん、よろしく申し上げます。失礼します。

○大西議長 それでは、引き続きまして、次の議題に移らせていただきます。

次の議題2、令和元年度の施策・事業の中間評価について、議題3、令和2年度予算編成への意見聴取について、2つあわせまして中村課長さん、峯課長代理さんよりご説明をいただきます。よろしく申し上げます。

○中村保健福祉課長 保健福祉課長、中村でございます。すみません、座らせていただきます。

それでは、私、中村と瓦と峯が議題の2、令和元年度の施策・事業の中間評価について及び議題の3、令和2年度予算編成への意見聴取について、担当する事項をご説明申し上げます。

資料としては事前配付資料として、令和元年度運営方針の概要版を送らせていただいているところですが、前方のパワーポイントを御覧いただければと思います。

なお、本日配付させていただいている資料として、パワーポイントを印刷したものもご用

意しておりますので、画面が見にくいという方はご参照いただければと思います。よろしゅうございますか。

それでは、始めさせていただきます。このパワーポイントは、令和元年度港区運営方針の重点的に取り組む経営課題の3の健やかにいきいきと暮らせるまちづくり及び経営課題の4、「子どもの学び」と「子育て世代」を応援するまちづくりのうち、保健福祉課が担当する箇所をまとめております。

なお、これら元年度の取組は全て来年度、令和2年度も引き続いて取り組んでいく予定をしておりますので、令和2年度予算編成の意見聴取についても一括してのご説明とさせていただきます。

それでは、まず本日は経営課題の3についてご説明をさせていただきます。

福祉・保健・子育て、5つの戦略として経営課題の3につきましては、地域福祉の推進、地域包括ケアシステムの構築、セーフティネットの充実、健康寿命の延伸の4項目、それと経営課題の4につきましては、子育て世代の応援を上げております。

3ページ目にいきます。

まず、戦略その1、地域福祉の推進であります。具体的な取組としては3点ございます。次のページ4です。ページの右下に数字を振っております。

具体的取組の1つ目、地域福祉活動計画の推進支援ですが、昨年度、各地域で区社協さんのサポートによりまして、各地域で策定されました今年度からの新しい地域福祉活動計画の内容が地域で根つき、また活動が着実に推進されるよう引き続き支援を行い、目標としては、身近な地域福祉活動について知っている区民の割合を70%以上としております。このため、広報みなと7月号の特集号で、画面の左側になりますが、各地域で策定された地域福祉活動計画をご紹介させていただきましたほか、右のほう、9月13日には民生委員児童委員協議会さん、また区社会福祉協議会さんと一緒に「地域のお宝見い一つけた」と題しまして講演会及び地域での取組報告を実施したところでございます。ということで、取組は順調ということでございます。

次のページ6です。

次に、具体的取組の②高齢者等要援護者の見守り支援でございますが、これにつきましては、港区役所が区の社会福祉協議会に委託をさせていただいている地域福祉サポート事業と大阪市が区社協に委託しております要援護者の見守り相談室の事業、2つの内容を記載しておりますが、目標としては区が委託しています地域福祉サポート事業の内容となっております。

す。地域福祉サポート事業といいますのは、地域見守りコーディネーターさん、この方に区内の11地域の憩の家にいていただきまして、高齢者等の要援護者に関する相談とか、相談だけではちょっとらちが明かんというときは専門の支援機関につないでいただくと、またそれに加えて地域の皆様の支え合いで解決できる、ちょっとした困り事に対応するために、そのちょっとしたお困り事のある方とボランティアの方をマッチングするというようなことで、住民主体の福祉コミュニティづくりを推進する事業でございます。

令和元年度の目標は区内全11校下の地域見守りコーディネーターさんが、要援護者の方から受ける相談延べ件数4,400件としておりますが、8月末現在1,361件となっております。昨年と比べて件数は落ちておりますが、これ実は複数の地区でコーディネーターさんが交代されたというような事情もありまして、年度前半、少し不慣れな面があったところは否めないところでございますけれども、今後慣れていただくにつれて件数も増えると考えております。ちなみに、昨年度総数で4,800件弱ございました。

次、7ページでございます。

次に、具体的取組の③の認知症支援ネットワークの充実であります。厚生労働省によりますと、団塊の世代の方が後期高齢者になる2025年問題と言われておりますけれども、その2025年には高齢者の5人に1人が認知症になると言われています。認知症の早期診断、早期対応の仕組みづくりというのは本当に急務でございまして、そのために各種の会議を開催するとともに、区民への広報として、広報みなと9月号で認知症相談窓口の周知、また研修会や講演会などの啓発活動に取り組んだところです。

次、8ページでございます。

このスライドの右側が広報みなとの9月号の一面でございます。左側が今月の19日に港区医師会さん主催で開催されました講演会のチラシでございます。当日は定員200名を大幅に上回る方々にお越しいただいたところです。

令和元年度の目標といたしましては、地域包括支援センター運営協議会のメンバーへのアンケートで、認知症支援のための関係機関の連携が進み、早期発見、早期診断の仕組みが機能していると答えた人の割合が80%としておりますが、取組としては順調に推移をしております。

次、9ページです。

次に、5つの戦略の2つ目、地域包括ケアシステムの構築でございます。先ほどの大阪みなと中央病院の事務部長さんからも地域包括ケアシステムということがありましたけれども、

地域包括ケアシステム、どういうことか、ごく簡単に申し上げますと、高齢者等が介護が必要な状態となっても、住みなれた地域で自分らしい生活を最後まで続けることができるように、地域内で助け合う体制のことです。

ここでの具体的な取組としては1つだけですが、次のページいきます。

在宅医療・介護連携の推進ですが、この在宅医療・介護連携というのは、病気になっても、住み慣れた生活の場で療養して、自分らしい生活が続けられるよう、医療と介護の関係機関が連携して包括的かつ継続的な在宅医療と介護サービスを提供できる体制を構築する取組です。

令和元年度の目標を居宅介護支援事業者連絡会に加入している事業所所属のケアマネジャーのうち、介護職から医療職への情報伝達シートを使ったことがあると答えた人の割合が50%としております。これは介護職からお医者さんに、この方はどういう生活をしてはって、状態はこうでとかいうようなことをよくケアマネジャーさんとかヘルパーさんが入られますので、そういう時に気づいたことをお医者さんに、ちょっと状態が悪いようですよというようなことも含めて伝達するというようなことに使うものでございます。これを使えば、ケアマネさんの報酬が加点されるということもあって、どんどん使ってほしいということも含めてこういった目標を立てております。こういったことのために医療関係者と介護関係者がより密接に連携できる体制づくりを目指しまして、会議や専門職向け研修会とか、専門職による自主勉強会、また一般向け講演会を開催して、専門職同士の連携強化に努めております。取組としては順調と考えております。

次、11ページでございます。

5つの戦略のうちの3つ目、セーフティネットの充実です。具体的な取組として7点上げておりますけれども、①の高齢者等要援護者の見守り支援につきましては、先ほどの1の地域福祉の推進での説明と同じ内容になりますので省略をさせていただきます。

次のページ、12でございます。

具体的な取組の②乳幼児発達相談事業の強化ですが、令和元年度の目標は、相談できる場を利用したことで不安が軽減されたと答えた養育者の割合を70%以上としておりますが、今年度も発達障がいに関する相談、また心理相談員による相談に鋭意取り組んでおるところでございます。

ここで瓦に替わります。

○瓦子育て支援担当課長　こんばんは。子育て支援担当課長の瓦でございます。すみません、

そのまま引き続き、座らせていただいたままご説明させていただきます。

13ページを御覧ください。

発達障がい児の養育者支援でございます。発達におくれや偏りのある子どもの子育てに係る相談事業といたしまして、障がいのある児童の養育者でつくられたNPO法人のチャイルズに親御さんへの面談を通して相談やアドバイス、情報提供などを月1回2組にカウンセリングを行うとともに、年に1回講演会も行っております。

目標は、相談によって不安軽減につながった養育者の割合70%以上を目指しておりまして、こちらは年度末にご利用者の方にアンケートで伺うことになっております。

続きまして、次の14ページ、御覧ください。

児童虐待の防止・DV被害者の支援でございます。虐待を受けているなどの支援が必要な児童等の早期発見や適切な保護を図るために、こども相談センターや保育所、学校等の関係機関とその子どもや家庭に関する情報や考え方を共有いたしまして、適切な連携のもとで対応するために、私ども子育て支援室が事務局を担います要保護児童対策地域協議会という組織のもとで支援を行っております。月1回関係者が集まりまして、虐待ケースの情報共有ですとか、これまでの対応、また今後の支援方針を協議いたしまして、虐待のリスク管理を行う実務者会議、また必要に応じて個別のケース毎に支援方針を決める個別ケース会議等を行っております。また、気になる子どもさんや虐待が疑われる家庭の情報が私どもの子育て支援室につながりやすくなるために、毎月、子育て支援連絡会を通じまして、各区内の子育てプラザ等の支援機関ですとか、地域の主任児童委員の皆さんと連携いたしまして、地域の身近なところで相談ができる体制を整えて、虐待の予防や早期発見に努めております。

続いて、DVの被害者支援といたしましては、DV被害の相談ですとか、いわゆるシェルターへの避難、的確な避難ですとか、また各種の法制度の利用に関する援助や自立支援を行っているところでございます。

目標といたしましては、子育て支援連絡会のメンバーに対するアンケートで、子育て支援室が児童虐待の早期発見・防止のために相談と連携の機能を果たしていると答えた割合80%以上を目指しているところでございます。

来月ですが、11月は児童虐待防止推進月間として、連日テレビや新聞で痛ましい児童虐待の事件が報道されているところでございますが、11月1日発行の広報みなどでも、虐待かなと思われましたら迷わず区役所やこども相談センターに連絡をくださいとの呼びかけをさせていただいております。

一方で、子育てに悩まれたり、つらいと思われている母親にとって、ひとりで悩まないでどんなことでもよいので、まずは区役所に相談くださいということもお知らせしております。その1本の虐待通報が子どもの命を救うことにつながることもあります。時にはお母さん、母親を追い詰めることにもなりますので、虐待に至らないように、子育て家庭が孤立しないように、身近な地域で支える環境づくりが重要と考えております。

本日、いろいろな資料をつけさせていただいている中に、この黄色いチラシですが、12月9日に港区地域ではぐくむ「み」ん「な」「と」子育て「明日からできる子育て支援を考える」という講演、意見交換会を開催いたしますので、ぜひ皆様もご参加いただければと思います。

今大阪市では、重大虐待ゼロの実現を最優先課題といたしまして、令和2年度に市長重点予算が新設されました。港区の実情に応じた取組を検討いたしまして、虐待未然防止・早期発見のために保育所等の関係機関との連携強化ですとか、妊娠期から出産後のメンタルヘルス支援を行うスタッフを配置する予定で予算要求を行っているところでございます。

○中村保健福祉課長 次に、具体的取組の5点目、障がい者・高齢者虐待の防止の取組です。令和元年度の目標としては、連絡会議のメンバーに対するアンケートで、関係機関との連携により、虐待事案の早期発見、迅速・適切な対応が行われていると答えた人の割合を80%以上としております。

これまで関係機関と連携した発生防止や早期発見、迅速・適切な対応のためのサービス利用調整会議等を随時開催し、今年度取り扱いましたケース数は高齢者虐待で49ケース、障がい者虐待で6ケースに上ります。今後とも迅速・適切な対応に努めてまいります。また、地域の方々や関係機関を対象にした講演会を1月に予定しております。

次、峯に替わります。

○峯生活支援担当課長代理 生活支援担当の峯です。引き続き、座りながら説明をさせていただきます。

私からは、お手元にあります本日配付資料の16ページ、17ページ、生活困窮者の対応の充実につきましてご説明いたします。

港区役所の2階に自立相談支援窓口である「くらしのサポートコーナー」を設け、生活全般における困り事の相談を受け付けております。相談者に対し適切な支援を行うには、相談される方の課題に対応可能な関係機関の協力が不可欠です。プラン策定に際しては、支援調整会議への関係機関の参加を求め、相談事業を円滑に進めているところです。

今年度の目標は、支援調整会議における外部関係機関参加によるプラン策定割合を30%以上と設定しています。8月までの状況は36%となっています。また、関係機関等との事例報告・意見交換会を8月8日に開催しました。現時点では目標を達成する見込みです。

続きまして、17ページになります。

くらしのサポートコーナーの設置根拠となる生活困窮者自立支援法が昨年10月1日付で改正されました。今回の改正に基づいて、区役所内外の関係機関に対し、生活困窮者を把握した場合、くらしのサポートコーナーへの相談を促すよう協力を求めました。また、情報の共有及び支援のあり方を検討する支援会議を創設し、関係機関に参加、参画の協力をお願いしてきました。現在においては必要に応じて会議を開催しているところです。

私からは以上です。

○瓦子育て支援担当課長 続きまして、18ページを御覧ください。

こどもの貧困対策の推進でございます。こちらの事業は、平成30年度から大阪市24区中7区のモデル区の一つとしまして実施しておりますこどもサポートネット事業という事業でございます。事業の内容につきましては、港区内の全ての小中学生を対象に、学校が一定の基準によりまして課題を抱える子どもやその世帯を発見しまして、学校と区役所が連携して、教育と福祉の分野から総合的に支援を行うというものでして、新たに区役所にこどもサポート推進員とスクールソーシャルワーカーという専属スタッフを配置いたしまして、学校と連携を図りながら課題のある家庭を訪問し、福祉制度につないでいるところでございます。

元年度の目標といたしましては、こどもサポート推進員ですとか、スクールソーシャルワーカーの配置が、教育分野と関係機関等による福祉分野の支援等につながったケース、小中学校全校で80件以上としているところでございます。

○中村保健福祉課長 それでは、19ページに移らせていただきます。

5つの戦略のうち4つ目の健康寿命の延伸ですが、経営課題3の最後の項目になります。具体的な取組としては2項目ございます。

20ページです。

まず、区民の健康増進ですが、令和元年度の目標としては、健康づくりに取り組んでいると答えた区民の割合を59.6%以上、これはちょっと端数が出ていますが、これは平成26年度結果の5%増しの目標となっております。

取組としては、港区健康月間、これは11月、毎年、港区は健康月間と定めておりますが、健康月間の取組やいきいき百歳体操の支援を初めとする地域での運動とか健康づくりの知識

の普及、啓発に努めてまいります。健康フェスタにつきましては、以前の区政会議でのご意見を踏まえまして、子育て層にも興味を持っていただけるような内容に工夫をして実施する予定でございます。健康月間につきましても、今年は30団体44事業のご参加をいただいております、年々参加団体数、事業数が増えております。

このパワーポイントの次にチラシがついていたと思いますが、一番上に11月の健康月間のチラシがございます。それから、その次のチラシが健康フェスタのチラシになっております。健康月間のチラシを見ていただきましたら、対象年齢を絞って書いている事業は何歳以上とかというふうに記載をさせていただいております、こういうことを書いてあるけれども、自分はちょっと参加できるんやろうかというようなところの解消にも努めているところでございます。健康月間とか健康フェスタのチラシにつきましては、またご参照をいただきたいと思っております。

次、21ページに移ります。

がん検診・特定健康診査の受診率の向上ですが、令和元年度の目標は、保健福祉センターで実施する肺がん・乳がんの検診の充足率を80%以上、また特定健康診査については、1月末現在の受診率の0.3%増しとしております。

今年度も、これまで広報みなとの広報、23ページにあります、これは毎年3月に保存版として1年間通しの検診の日程とかを載せさせていただいております。これを使っていただきますと、非常に安く受けられるというようなところもアピールをしておるところでございます。ただ爆発的などいいますか、なかなか率の伸びにつながっていないというのは、今年も同じようなお話をさせていただかなければならないようなところがございます。また、皆様方のお知恵も拝借したいところでございます。

周知ポスターとかチラシを各医療機関にお願いしまして、掲示とか啓発の依頼をさせていただいており、さまざまな取組を行っておりますけれども、保健福祉センターで実施する肺がん・乳がんの検診の充足率というのは、今年につきましては8月末現在で81.3%となっております。また、特定健康診査の受診率は、この時点では3.1%ということでございます。

大変雑駁ですが、経営課題3の健やかにいきいきと暮らせるまちづくりの説明は以上とさせていただきます。

○大西議長 どうもたくさんの説明、ありがとうございました。

皆さん、何かご意見、ご質問ございましたら。

挙手してお名前を言ってからよろしく申し上げます。

○香山委員 医師会の香山でございます。いつもありがとうございます。

いきいき百歳体操というのはすごい人気があるようで、その体操をしているところは結構満杯という話を聞いています。例えばご高齢の方、要支援の方とか、余りデイサービスとかにも行っていない方々が百歳体操を使って健康維持をするのがいいんじゃないかということで、ケアマネも推進しているんですけども、どうなんでしょうか。もう少し会場を増やすとか、日にちを増やすとか、そういうことはできないものでしょうか。

○上野保健副主幹 先生、ご質問ありがとうございます。保健師の上野です。

先生のおっしゃる会場を増やすというのが、全区、大阪市24区どこも皆、問題に考えておるところです。やはり皆さんが椅子に座ってDVDを見る場所というのが今、飽和状態になっておりまして、いろいろなところでどういような会場が使えるのか、これから銭湯のところとか、いろいろなところに働きかけていかなあかんというのがオール大阪の問題点となっております。港区も本当にどこも満杯で、ただ、日にちを増やすというのは、これは週2回というのがベストな日程となっておりますので、毎日やるものではないということで、週2回、もしくは週1回やらせていただいております。お答えになりましたか。

○香山委員 月木のパターンと火金のパターンとか、そういうような形でもできれば、1会場で曜日も決まってしまうので、全部押さえるのは難しいのかもしれないですけども、そういうことで1会場で2つのパターンの曜日ですとか、そういうのができれば、倍になるんじゃないかなと思いますので、またご検討いただければと思います。

○上野保健副主幹 わかりました。ありがとうございます。

○香山委員 これは非常にいい体操なので、公的なところだけではなくて、いろいろな介護施設でもこれを取り入れるようにしてはどうでしょうか。DVDにして渡したり、そういうようなことができればと思うんですけども、もっとオープンに皆さんに使っていただけるような、施設でも使っていただけるような体操にしていけばどうかと思うんですが。

○上野保健副主幹 わかりました。

○中村保健福祉課長 ありがとうございます。ちょっと大阪市の全体のお話も上野からさせていただきましたが、大阪市がどういう基準で目標にして百歳体操をやっているかということですが、まずは高齢者人口2,000人当たり1カ所のそういう会場を何とかつくりましょうということでやっておりまして、まだまだというところはありますが、大阪市の中でも港区の保健師は非常に頑張ってその辺、広げておりまして、箇所でもいいましたら区内25カ所なのですが、百歳体操やラジオ体操など介護予防の取組を実施している率、その人口との対比の率

で見ましたら、大阪市で2番目にいい率になっておるといことで、それに甘んじることなく、先生おっしゃいましたように、どんどん広げていかなければならないかなと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

○上野保健副主幹 先ほど先生、施設のところでとおっしゃったのですが、これ固いことを言つて申し訳ないのですが、施設は介護保険法といことで施設が運営されておひまして、大阪市から体操で使用する重りとかをもらうのは、介護予防のお金になってひます。だから、介護保険のところでは、この大阪市からの重りが配付できないといこのすごい……

○香山委員 それも施設が負担してすればよいのではないでしようか。

○上野保健副主幹 といことになっておひまして、そこをうまいこと施設が区民に門戸を開いていたらいけるとかといような運用方法もあひますので、そういうところも周知していきたいと思ひておひます。またどうぞよろしくお願ひいたします。

○香山委員 ありがとうございます。

次、また、がん検診のことなんですけれども、今、大腸がんといのが、女性は今、乳がんが一番多くて、2番目が大腸がん、男性は胃がんが1番で2番が大腸がん、今、死亡率、何のがんで亡くなるかといったら大腸がんが多いんですね。大腸がんの検診をもっと広めていきたいと思ひんですけれども、今の検診の制度では、まず診療所なり保健福祉センターへ行って、便の容器をもらつて、持つて帰つて取つて提出して、結果をまた聞きにいくと、3回行かないといけないので、そこをできれば2回ぐらいに減らせればなと思ひんですけれども。

ただ、ちよつと思ひてひるのは、このがん検診の、大腸がんの対象年齢の方に用紙と容器を全部郵送で送れば、どここの診療所、病院、保健福祉センターに提出してくだされいと、保存方法とかいろいろあひるので、そういうのをきつちりと明確に書いてくだされ郵送すれば、どんと上がると思ひます。ただ、その前に、便の検査容器が一律でないで、どこの検査会社でもいけるといわけではないので、その辺を検査会社と検討しまひして、一定の容器に統一するといことになれば、これが可能だと思ひます。その辺もちよつと行政の力で検査会社、全部寄つて統一せえといふふうにお願ひしてもいいかもしれないです。

○上野保健副主幹 すみません、たびたび。保健福祉センターにお申し込みの大腸がん検診の方には容器は送つておひまして、結果も異常なしでしたら送つておひます。だから、何もなければ、1回は区役所に来てくだされないとだめなのです。潜血反応が出た人のみ紹介状をお渡しするので、こちらに来てくだされといふ形になっておひますので、今、先生のおつ

しゃっていた容器を取りにくるということはありません。ただ、あと容器のいろいろな統一とかいうのはまたちょっと私のほうでは今、答えられませんので、ご検討させていただきます。

○中村保健福祉課長 ちょっと容器の統一というのは、多分港区だけで言ってもなかなかというような問題でもありますので、大阪市にこういったご意見、生かされないかということで上げていければと思っております。よろしく申し上げます。

○大西議長 どうもありがとうございます。

あと、どなたか何かございませんか。

どうぞ。

○加藤委員 港区社会福祉協議会の加藤と申します。

一つ教えていただきたいのですが、資料の13ページの発達障がい児の養育者支援というところで、養育者同士が交流する場の提供というところで、ピアカウンセリングがあったりというようなお話をご説明いただいたんですが、この場というのはどういったところで周知をされているか。健診を受けられる中で対象になられる方というのはそこでということはあるかと思うんですが、学校に行き始めてから学校で何か困りごとなどがあって診断につながったりとか、医療機関につながって診断されてという方にそういった情報が届いているかどうか、そのあたりを教えてくださいませんか。

○瓦子育て支援担当課長 ただいまのご質問ですが、こういう相談事業をしておりますということは広報等を通じても周知はしておりますし、また子育て支援室のほうに家庭児童相談員というお子さんの発達等の相談を受けている専任のスタッフがおりまして、日ごろからいろいろなご相談を受けている中で、なかなかこのピアカウンセリングも本来、いろいろなお子さんの発達について悩まれているお母様方にとって、とても今、有効といいますか、聞いていただければ役立つものだと思いますが、なかなかお母さん自身がお子さんのその状況を受け入れがたいようなこともありますので、どなたでもということにもまいませんので、どちらかという、最近の現状でいいますと、広報等を見て来られるというよりは、家庭児童相談員にご相談をされている方の中からつないでいくというような形になっているのがここ最近の状況でございます。

ただ、今、発達障がいのお子さんが多く増えているということもありますので、できるだけこういう求めているご家庭に相談をしているということは伝えていきたいと思っておりますので、今後広報等の周知にも努めていきたいと思っておりますのでございます。

○加藤委員 ありがとうございます。

例えば、学校とか医療機関さんでの周知といったところもご検討いただけるといいのかなというふうに思いましたので、お願いいたします。

○瓦子育て支援担当課長 ありがとうございます。

○大西議長 どうもありがとうございました。

ほかはございませんか。

この福祉部会についても、全体会議も同じですが、ここで質問する時間もないしということであれば、また普段の日に皆さん方がお気づきになったことは区政会議の委員のAですということでファックスなりメールなり、またお電話なりでこの皆さんの名簿の裏に書いております役所の担当の方のところにお電話して、こういう問題はどうかと、あるいはまたこういう問題どうですかという提案もございましたら、区政会議のこの場以外にどんどん提案、質問させてもらってもいいんですね。そういうことでございますので、何分、この区政会議は回数も少ないし、時間も短うございますので、またそういうご意見、提案がございましたら、そういうことでどんどん提案していただきたいと思います。

それでは、次に進みます。

経営課題4の説明をお願いいたします。

○瓦子育て支援担当課長 それでは資料の、24ページ、もしくは前を御覧ください。

戦略の5でございます。子育て世代の応援といたしまして、具体的取組を前の1から3まで3つ行っております。

25ページを御覧ください。

保育所の待機児童への対応でございます。特に需要が高いゼロ、1、2歳を保育いたします小規模保育事業所と呼ばれます保育施設整備の公募を大阪市の局と連携して行ってきましたが、残念ながら今年度、現時点ではその開設には至っておりません。10月1日現在の港区におけます待機児童数が現在6名となっているところでございます。待機児童対策は区独自の解決というのはなかなか難しく、全市共通の課題といたしまして、市長をトップとした待機児童解消特別チームが全市を挙げて取り組んでいるところでございますが、さまざまな諸要因によりまして解消が図られておりませんが、今後もこの実情を局に伝えながら、大阪市の動きと連携しながら待機児童の対応を行ってまいりたいと思っております。

また、なかなか保育所の施設の開設は難しいですが、子育て世帯が幼稚園ですとか保育所とか、放課後の児童クラブ等の地域での子育て支援事業等の中からそれぞれニーズに合った

ものを選んで円滑に利用していただけるように利用者支援員というスタッフを区に配置しておりまして、さまざまな相談や情報提供は行っているところでございます。

次、26ページを御覧ください。

子育て支援情報の提供でございます。子育て家庭をサポートするために、さまざまな子育て支援情報を的確に提供していく必要があるところでございます。区の広報紙では6月号で子育て支援に関する特集号を発行いたしました。また、毎月ございます乳幼児健診時には相談や情報提供を行うとともに、在宅で子育てをされている家庭を見守れるように、子育て支援機関との連携に取り組んでおります。子育て情報が役に立ったと答えた区民の割合97%以上を目標としているところでございます。

続きまして、27ページを御覧ください。

子育て相談機関による支援の充実でございます。現在、子育て相談機関からさまざまな方法で子育て情報が発信されていますが、その関係機関が連携を図ることで地域の身近なところでいろいろ気軽に相談できるという体制をつくっていくことが必要かと思っております。またその支援機関が相談を受ける力を一層スキルアップさせていく必要があると考えているところでございます。区の子育て支援室、子ども・子育てプラザ、子育て支援センター、はっぴいポケットみ・な・とのこの4者で毎月会議をしております。それぞれ気になるお子さんや家庭の情報を共有して支援を検討したりですとか、さらに今申し上げた4者に主任児童委員や社会福祉協議会も加わった子育て支援連絡会を毎月開催しております。親子で楽しめるイベントの企画、実施ですとか、子育て情報誌の発行など、子育て家庭を応援する取組も行っております。さらに、今後も支援機関の連携によりまして、子育てしやすく身近に相談しやすい環境づくりが児童虐待の防止にもつながると考えておりますので、取り組んでまいりたいと思っております。

目標は、子育て支援室が児童虐待防止のために相談と連携の機能を果たしていると答えた割合80%以上を目指しているところでございます。

以上、私からの説明でございます。

○大西議長 どうもありがとうございました。

ただいまのご説明に対して、何かご意見、ご質問ございませんか。

ないようでしたら、あと事務局からの報告事項、連絡事項をお願いいたします。

○藤田総合政策担当課長 最後になりますが、資料、その他というところで、港区区政会議のアンケート結果というのがございますので、簡単にご報告をしたいと思います。

各部会とも区政会議の運営について参考とさせていただくためにアンケートをさせていただいた結果でございます。かいつまんで申しますと、まず1番のところは、これが一番大事かと思いますが、活発な意見交換がなされているかどうかということで、7割の方がそう思うというふうに言っていておまして、さらに活性化を図っていただけたらなというふうに思っております。

それから、いろいろ聞いておりますけれども、特に2、3のところは、資料を読むのが大変というようなご意見とか、資料が多過ぎるという意見がございました。これを踏まえまして、今回から資料の簡略化を図ってきてございます。以前ですと、もうちょっと分厚い細かいいろいろな資料をお送りしていたのですが、なかなかそれは大変だと思いますので、簡略化したような形で運営方針についても送らせていただいているということでございます。

それから、その裏のところになりますが、4番で評価、ご意見についてのフィードバックということも82%の方が肯定的な意見をいただいております、引き続き、こういうさらによい評価がいただけますように、区政会議の全体の運営についても取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

それから、最後でございますが、今回は福祉部会ということでございます。区政会議の委員につきましては、区政会議の全体会議が11月12日でございますので、またご出席いただければと思っております。

以上でございます。

○大西議長 どうもありがとうございました。

もうあと他はないですか。もうよろしゅうございますか。

委員の方、何かほか今日一言申し上げたいというようなことがございましたら。

どうぞ。

○藤原委員 障がい者支援専門部会の藤原でございます。

2点ほどお願いといいますか、ちょっと頭の片隅にでも置いておいていただけたらなというふうに思うんですけれども、地域包括ケアシステムについては対象者が高齢者等ということですので、障がいの方も含まれていると考えてはおるんですけれども、重度の医療ケアの必要な障がいがある方が、なかなかやっぱりご家族ともに地域で苦しんでいらっしゃるという事情がありますので、ぜひこの地域包括ケアシステムの中に障がいの方も対象者として含んで考えて推進していただきたいということが1点です。

もう一つ、これは僕がわかっていないだけかもわからないんですけれども、今日のこの福

祉部会なんですけれども、地域支援調整チームの中で、恐らく3つ専門部会があると思うんです。その中で高齢者支援専門部会からのメンバー選出がないと、名簿の中にはないということなんですけれども、それについては、その名前が挙がっていないだけで、その役割の方がおられるんだったらそれでいいんですけれども、いてなければ、ちょっと気になるなと思いました。

○中村保健福祉課長 すみません、地域包括ケアシステムについては高齢者「等」ということで包含させていただいて、もともと厚生労働省が最初に言い出したときは、やっぱりものすごい高齢化が進んでいるというのがあって、高齢者中心に考えていたと思いますが、それだけではやっぱりということで、今は障がい者の方、それから子どもさんも含めた形で地域包括ケアシステムというのを今後構築していかなあかんというような認識でおりますので、その点はどうぞよろしくお願いします。

それから、高齢者支援専門部会の肩書きが今ないやないかという、すみません、実は讃井先生が歯科医師会の肩書きで出ていただいておりますが、それも高齢者支援専門部会も兼ねたという形で出ていただいておりますので、ちょっと載せていなくて大変申しわけないですが、そういうことでございます。すみません。

以前、歯科医師会の平尾先生が高齢者支援専門部会の代表であり、かつ歯科医師会のご代表ということで出ていただいております。今回、讃井先生が平尾先生と交代されましたので、その2つの肩書きをそのままなっております。ちょっと肩書き、2段にできなかったのも、歯科医師会という会長さんでもございますので、歯科医師会ということで出ていただいております。すみません。

○大西議長 どうぞ、山本さん。

○山本芳輝委員 公募委員の山本です。

直接福祉部会のことではないのかもしれないんですけれども、急がなければいけないと思うので、ここで言わせていただきます。大阪みなと中央病院が今、開業されて、その前にOsaka Metroの駅に行く仮設階段ができていますけれども、エスカレーターやエレベーターではなく仮設階段ができていまして、そこを先日、足のお悪い方がつえをつきながら階段を上っておられるのを見まして、これは大変やなと思って、でもエレベーターに乗ろうと思うと、横断歩道を渡って100メートルほどぐるっと回って向かい側へ行かないとエレベーターがないんですね。向かい側にはなぜか2カ所、エレベーターがあるんですけれども、こちら側にはなくて、あるといえば、大阪みなと中央病院の中にきっとエレベーターはあると思う

んです。ですから、もし可能でしたら、さっき事務局がいてはったときに言えばよかったんでしょうけれども、お願いして、その中の営業時間内だけでもそのエレベーターを使えるようにしていただくなり、そこへ行く案内を、こちらを利用されるといいですよというような案内があれば、たくさんの方が助かるのではないかなと思うんですが、いかがなものでしょうか。

○藤田総合政策担当課長 すみません、先ほど触れていたらよかったのですが、ちょっと失念しておりました。実は、その大阪みなと中央病院さんのエレベーターの件とそれから今の区民センターの耐震化の話とか、それから43号線、国道のエレベーターの問題とかのバリアフリーに関わる問題、いろいろご質問いただいています、本日いただいたところでございますので、全体会議の場で文書で回答したい、ご出席の皆様、ご出席いただけるかどうかはありますけれども、欠席の場合の方も含めまして、全員の方にまた郵送などでお知らせしたいと思っておりますので、すみません、よろしくお願いします。

○山本芳輝委員 ありがとうございます。前もって連絡させていただいたので。今の階段のことだけは本当に急がないといけないと思って、これだけ今日場で言わせていただきました。遅くなりますので、申しわけございません。

○筋原区長 また全体会議の時にも改めて病院さんへも。

○大西議長 どうもありがとうございます。

そしたら、全体会議の時に、いわゆる43号線のエレベーター、渡る分とか、それからこっちの階段の件、それはまた全体会議の際にひとつご説明していただけますように。

○山本芳輝委員 よろしく申し上げます。

○大西議長 それで、皆さん、こっちは委員でこっちは役所ということではなしに、すんまへん、どないだっか、今日天気いいの、あれどないなってまんねんというようなことで、どんだん役所と我々が近づいて行って、こっちも言いたいことを言う、向こうも言いたいことを言うてもらって、それで両方がとにかく区民が良くなる方向にいて、いや、ここまできこう思うんだけど予算がないからちょっと来年まで待ってくれとか、いろいろなそういう事情があると思いますし、これはちょっと区長の権限ではなしに、中之島の市長のほうの権限なのでそっちへ一回話を通してみますとか、そやからそういう道筋をつけて、一步一步でも前進していくように、また我々もいろいろなことを申し出る、提案することもあると思いますけれども、役所のほうもひとつ区民と仲よくひとつ前を向いていくようによろしくお願いします。

それでもうございませんか。

委員さん、何かございませんか。

ないようでしたら、一応今日の会議はこれで終わりたいと思いますので、長時間にわたりますして、皆さん、どうもご協力ありがとうございました。

それでまた次は全体会のほうにもよろしくお願いをいたしまして、今福祉部会、閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○筋原区長 今、大西議長からいただいたのですが、この区政会議は一番公式な意見をいただく場ですけれども、その時とは別に今年から意見交換会というのも始めていまして、テーマ別で区民ホールでやる意見交換会をこれから例えば子育て支援の共有とか、テーマ別にやりたいなと思っています。

あと、出張でも、小さい場でも僕、呼んでいただいたら行きますので、そこで対話、おっしゃっていただいたように本当にざっくばらんでお話しするという、やっぱり対話が基本だと思っていますので、そういう形で進めていきたいと思っています。また出張でということであつたら、またお声がけいただきたいと思っています。よろしくお願ひします。ありがとうございます。

○大西議長 ありがとうございます。

○橋本保健福祉課長代理 長時間にわたりご議論いただきましてありがとうございました。

それでは、これで港区区政会議の第2回福祉部会を終了させていただきます。

本日は誠にありがとうございました。